

地区別認知症事例検討会 実施結果

事前申込み者総数 180名
 当日参加者総数 149名 アンケート回収数 144名（回収率96.7%）

地区別テーマおよび参加者数

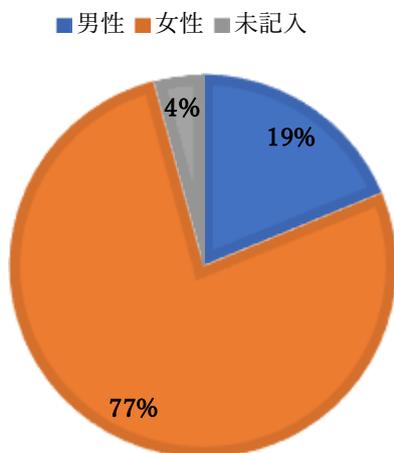
- 11/19 練馬地区（Coconeri 研修室1） 「通販で浪費・家事に不安」「近隣トラブル」
 参加申込数 50名 当日参加者数 40名
- 11/26 石神井地区（勤労福祉会館） 「老々姉妹の独特な生活様式」「被害妄想で家族が疲弊」
 参加申込数 51名 当日参加者数 43名
- 12/ 6 大泉地区（勤労福祉会館） 「受診拒否・サービス導入拒否」「運転免許証の返納」
 参加申込数 44名 当日参加者数 35名
- 12/12 光が丘地区（Coconeri 研修室1） 「介護の拒否、家族への暴力」「独居、親類への疑心暗鬼」
 参加申込数 35名 当日参加者数 31名

実施方法

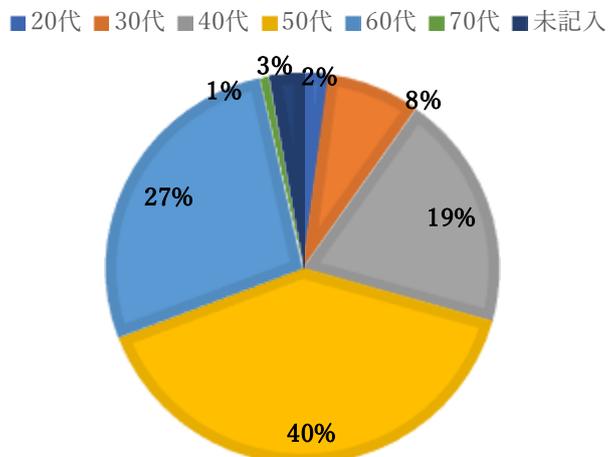
- ・ 区の認知症相談支援体制の説明
- ・ 地域包括支援センター認知症地域支援推進員（事例提供者）から事例の説明
- ・ グループワークにて支援方法、内容などの検討。検討内容の発表。
- ・ 事例提供者のコメント
- ・ 認知症疾患医療センターの紹介と事例についての講評

アンケート結果

性別

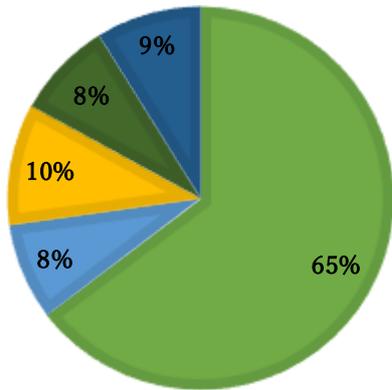


年代



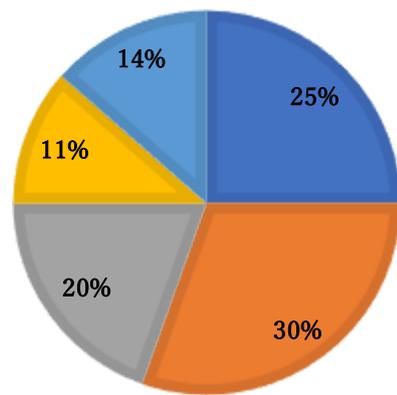
職種

■ケアマネ ■医療関係 ■介護関係 ■その他 ■未記入



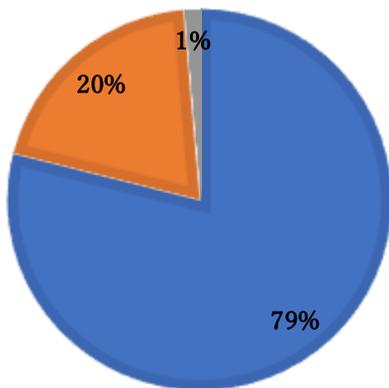
経験年数

■0~5年 ■6~10年 ■11~15年 ■15年以上 ■未記入



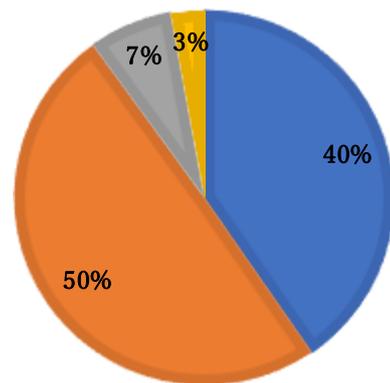
参加理由

■自己研鑽 ■業務 ■未記入



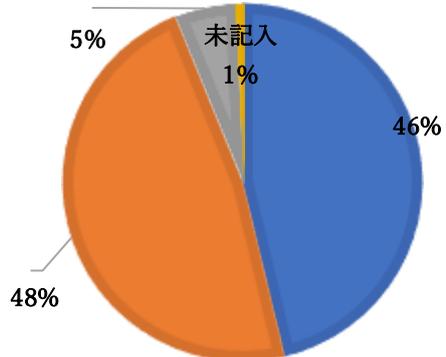
目的に沿っていたか

■とてもそう思う ■そう思う
■どちらともいえない ■未記入



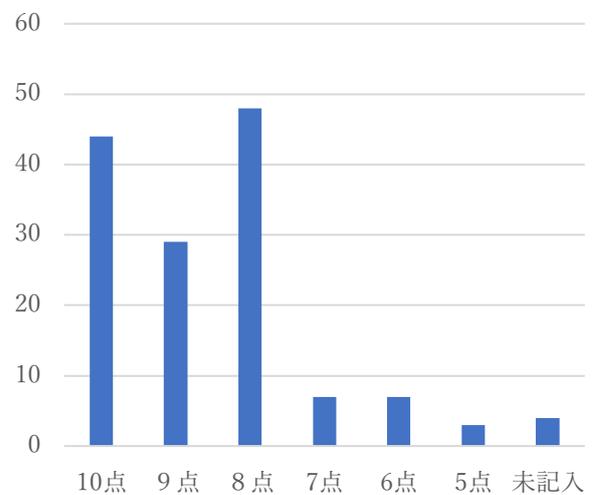
この事例検討会は役に立つか

■とても役立つ ■役立つと思う
■どちらともいえない ■未記入



満足度（10点満点）

平均 8.6 点



ご感想、ご意見（抜粋）

- * 認知症疾患医療センターの役割が分かりました。医療機関が身近なものにかんじられて良かったです。
- * 包括の方は、本当に大変なケースを受け持っていると思った。私達支援する者も今日のようにたくさんの方に相談できる機会が多くあると良いと思いました。
- * ケアマネジャーに包括を相談先として認識していただいていることを確認できた。これからも連携するうえで相談される包括でありたい。
- * 多職種、多人数の意見、色々なグループの考え方がとても参考になった。
- * 多職種の着眼点が多様に渡っており、とても刺激になった。
- * グループワークの意見が出しやすい人数だけで楽しく話し合いができました。
- * 認知症の方の支援はいつも難しいと感じているので、ケアマネジャー等いつも対応している人達の考えを聞けるのはとても有意義でした。
- * ファシリテーターの上手な進行で内容が深まった。認知症の方のアプローチは慎重かつ様々な視点が大切。
- * アプローチの仕方を学ぶことができた。どこからアプローチするか関連性をたくさん得られた。
- * 事例検討の後、実際の事例のその後を聞くことができ、自分のアプローチを確認できた。
- * 本人以外の家族の関わりからサービスにつながる可能性を見つけていく、改めて必要だと感じた。強い拒否、怒って話にならない、いろんなケースの参考にしたいと思った。
- * 改めて階層的アプローチ及び傾聴が有効であることを再認識した。
- * 自分の考えている方針が、支援内容と一致して安心した。
- * 拒否のある認知症、免許証の返納、毎回悩まされる事例に親しみを感ずる。
- * 後見導入や介護介入拒否のあるケースは、対応に苦慮することが多く、まだまだ介入のタイミングをつかむことが出来ない場合もあり、このような事例検討会があるととても勉強になると思いました。
- * DASC という用語を初めて知りました。独居の精神疾患の方が増えてきて、あまり親身になると全面的に頼ってしまう場合が多いので接し方が難しいです。
- * 田邊先生のお話し、すごく参考になった。自分を客観的に見られるお話しでした。
- * 田邊先生の「過去の生活歴から話の切り口を探る」という点が非常に参考になった。認知症の自覚のない方との信頼関係を構築するうえで活用したい。
- * 認知症高齢者を地域で支え合うシステムが構築されるよう、地域ネットワーク充実が必要と思った。
- * 時間的にも内容的にもよかった。グループワークの時間もだらだらせずに良かった。

課題と今後の展望

- * 2事例は多いのでは。グループワーク検討・発表の時間とグループ間の質問の時間を多くとりたい。
- * 資料にアセスメント結果の情報量を増やした方が、具体的な検討ができる。
- * 認知症の人の理解と意思尊重の視点で検討を進めるべき。
- * 認知症の専門医の話をもう少し聞かせて欲しかった。
- * グループ所属メンバーの名前と職種がわかるものを用意いただけるとよい。

今後に向けて

- ⇒ ・ 検討事例、資料内容、検討の視点等をより精査する。
- ・ 参加職種の多様化と多職種からの事例提供を検討。（今回は包括、ケアマネ中心、包括からの事例提供）
- ・ 名簿、名札等の用意、時間配分など検討。